

地域における野生鳥獣被害対策の成果と今後の取組について

対策チーム名 木曾野生鳥獣被害対策チーム

■発表タイトル 電気柵の効果的な設置・運用を促進するための農業者向けリーフレットの作成

■地域名 木曾管内全域

■内容概要

1 地域の概要

集落戸数	うち農家	加害鳥獣	被害農作物等	備考

2 実施した内容

区 分	実施に当たって工夫等したポイント	
経 過	当対策チームにおいては毎年夏季に管内の獣害防止用電気柵について点検巡回を行っている。その中で、主に設置者の知識不足によると思われる設置上・管理上の問題点が散見され、電気柵がその効果を十分に発揮できていない現状が明らかとなった。このことを踏まえ、農家が個人で電気柵を設置する際に参考となるリーフレットを作成し配布することで個々の電気柵の機能向上と鳥獣被害の低減を目指す。	
取組内容	夏季に行った電気柵の点検巡回及び静岡県で発生した電気柵事故の際に行った点検での指摘事項、また、H27 年度管内の元気づくり支援金を活用した長野式電気柵の展示圃場における事例等をまとめ、管内で農業者が電気柵を設置するにあたって留意すべきポイントを整理した。それらを基に資材の選び方、設置の手順、管理のポイント等をリーフレットにまとめた。これを用い、H28 年度の各種講習会、現地指導、点検巡回等の際に電気柵の基礎知識の普及に努めている。	
効 果	被害状況	
	その他特記事項	
農家の方からのコメント	特にサル対策に苦慮している。説明の中で盲点だった部分もあるので今後注意していきたい。	

3 課題と今後の取組

H28 年度以降も電気柵の点検巡回を行い、今回作成したリーフレットを活用しながら電気柵の基礎知識及び管理方法について普及してゆく。また、町村で電気柵への補助事業を実施する際にも農業者への説明をしてもらうなど協力を求めたい。

近年利用が拡大しているネット通電式電気柵への対応も検討を進める。

資材の選び方のポイント

○支柱

- ・ 畜電の恐れが無い、大型獣の衝突に耐えられる素材を選びましょう。
 (右上写真：左から絶縁木、木柱、樹脂被覆鋼管、グラスファイバーポール、FRP支柱)
 (被害が避けられる危険があるものは避ける：右下写真)
- ・ 長さは対象獣ごとに次の目安とします。
 イノシシ：1.2m以上、シカ：1.8m以上
 (支柱は最低30cm程度は地面に打ち込むので余裕のある長さ)

お化した支柱

○電牧機

- ・ J (ジュール) V (ボルト) 表示等により出力が確認できるものを選びましょう。
- ・ 柵の設置距離に応じた出力のものを選びましょう (設置時電圧：5000V以上)
- ・ 設置期間や設置場所の環境、電牧機の出力に応じて電源を選びましょう。
 例：期間が長く充電が困難な場合 ソーラーパネルの併用
 期間が短く小さい場合 乾電池式

使う前に読む 電気柵の設置のいろは

—うまく使って、しっかり収穫—

獣害から農作物を守る基本は

獣が侵入しても被害つくり (環境整備)

獣が柵を食べにくい環境 (防護柵等)

被害を出さず柵を電やさない管理 (電牧)

どれかの対策の1つが欠けるだけで、獣害対策はうまくいかなくなります。

効果的に設置するために大切なポイント

- 被害を出している獣の種類を特定する
 - ・ 獣の種類を特定しないと、柵の構造が決まらない。
- 獣の種類による電牧線等の間隔と段数
 - ・ 獣の侵入の仕方はさまざま
 - 線の下をくぐるもの
 - 線と線の間をくぐるもの
 - 上を飛び越えるもの…等々
 - ・ イノシシ・クマ
 - 地面から、15cm、30cm、50cmの3段張。
 - クマは必要に応じて2重に設置 (右上写真)。
 - ・ タヌキ・キツネ・アナグマ (むしな)
 - 地面から、10cm、20cm、30cmの3段張。
 - ・ ニホンジカ・カモシカ
 - 地面から、25cm、50cm、80cm、110cm、160cmの5段張。
 - ・ ニホンザル・ハクビシン
 - 通電ネットを囲う、または1m以上の物理柵の上部に、10cm間隔で+を交互3段以上。
 - ・ 複合柵
 - 複数の獣を対象に設置する場合は、上記を組み合わせる。(右下写真)
- 四方をしっかり囲む
 - ・ 獣は、柵の途切れた部分や、隙間を探して侵入 (ニホンザル、イノシシ、ハクビシン複合) します(獣は、頭が入れば侵入します。)
- 電牧線は支柱の外側
 - ・ 獣が、支柱を登ったり、押し倒して侵入する場合がありますので、電牧線は獣が触れやすいように支柱の外側に設置します。

日頃の点検のポイント

○電圧の確認 (3カ所以上で測定)

電圧が下がっていた場合の注意ポイント

- 電牧線に草、草、ツルが触れていないか。
- 電牧線に草などが触れていると高電して、電圧が下がってしまいます。特に支柱に巻きつくツルに注意しましょう。
- 電牧線が腐んで接触していないか
- アースと電牧機が確実に接続されているか。

○柵まわりの点検

- 柵の周囲に藪ができていないか。
動物が近づきやすくなることも、漏電のリスクが増えます。
- 原木、脚立などが柵の周囲に放置されていないか。
サル等の侵入のための足場になるので、速やかに撤去しましょう。

困った時の相談先

＜木曽農業改良センター＞	ファクシミリ 0264-22-4646
農業被害の相談、特に集落における被害対策	＜木曽地方事務所 林務課＞
農業被害対策実地への支援	林業被害の防除、人身被害の防止、捕獲体
電話直通 0264-25-2230	獣の登降などに際して
ファクシミリ 0264-22-4346	電話直通 0264-25-2224
＜木曽地方事務所 農政課＞	ファクシミリ 0264-23-3235
農業被害の防除、捕獲体等の登降等に関して	＜お住まいの町村役場 農林担当係＞
電話直通 0264-25-2220	

木曽地方事務所 農政課 電話 0264-25-2224 木曽地方事務所内 平成28年1月 印刷発行